

そらんぽへ行こう

固 博物館・プラネタリウム (TEL 355-2700 FAX 355-2704)

四日市の生んだ「日本のライト兄弟」 玉井兄弟展

博物館は5月6日(休)まで、3階常設展・時空街道内「白里亭」とロビーで「玉井兄弟展」を開催しています。この展示は、浜田(現・諏訪栄町)で生まれ、日本の航空史に大きな影響を与えた玉井兄弟(兄 清太郎・弟 藤一郎)の生涯をさまざまな写真資料や実物資料、再現模型などを通して紹介しています。

玉井清太郎は16歳の時に竹とんぼを見て空を飛ぶことに興味を持ち、飛行機の研究を始めます。2歳年下の弟藤一郎とともに、資金集めに苦労しながら何度も飛行に挑戦しま



日本飛行学校格納庫と
NFS 3号機(左)、2号機(右)

した。そして、数々の困難を乗り越え、大正5(1916)年に悲願の飛行を成功させました。

また、日本初となる飛行家養成学校「日本飛行学校(NFS)」を設立するなど、飛行家を志す若者に門戸を開きました。生徒の中には後に児童文学作家となる青木茂や、「特撮の神様」と呼ばれる円谷英二(つぐひや)がいました。

玉井兄弟が飛行機に使用した実物のプロペラも初公開中です。四日市ゆかりの若者が、空への憧れから追いかけた夢に思いを馳せてみてください。

文化財さんぽ

固 文化課 (TEL 354-8238 FAX 354-4873)

郷土の歴史を未来に残す ～三重郷土資料館～

国登録有形文化財である三重郷土資料館は、旧三重郡三重村役場の書庫として、大正5(1916)年に建てられた建物です。

三重村と四日市市が昭和29(1954)年に合併した後も三重出張所の書庫として使われ、昭和49(1974)年に三重地区市民センターが新築される際、地域の人々の尽力で東坂部町の現在の場所に移築されました。土蔵造2階建ての建物で、鬼瓦には「三重」の文字が刻まれており、当時の役場の歴史を今に伝えています。



三重郷土資料館(東坂部町)

現在は資料館として、地域の人が収集・寄贈した歴史資料、生活用具などを多数展示しており、小・中学生の「学びの場」、また地元の人々の「郷土愛を育む場」として積極的に活用されています。

地域の人々に大切に守られている三重郷土資料館を訪れ、昔の暮らしに触れてみてはいかがでしょうか。見学を希望される際は、三重地区団体事務局(三重地区市民センター内 ☎331-8282)へご連絡ください。